
真・信長無双 ～天下人飽きたから小娘に天下取らす～

明火付

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・信長無双 ～天下人飽きたから小娘に天下取らす～

【Nコード】

N5564BA

【作者名】

明火付

【あらすじ】

本能寺で燃え尽きた織田信長。だが目を覚ますとそこはあの恋姫の世界で——！？「天下人はもう飽きた。今度は裏で全部を操る宰相ぶれいするわ！」所属陣営は蜀です。織田信長はオリキャラ。作者は中国の知識ほぼゼロ。原作乖離、キャラ崩壊等ありますので苦手な人は閲覧注意

第一話『本能寺』（前書き）

作者は三国志の時代設定および当時の知識はありません。楽しく書きたい唯それだけを信条としてがんばります。

第一話『本能寺』

矛が飛び火線が走る。

身を守る忠兵達は長槍に貫かれながらも壁となった。

——息をする度に胸が焼け、歩くたびに体が悲鳴を上げる。

「殿！お気を確かに！」

唯一従う蘭丸もその整った横顔を薄汚い煙と血で汚していた。
すまぬ、つと思った。

目の前にあるのは、豪華絢爛の岐阜の城ではない。

火の粉を上げ、崩れ落ちる廃寺。

嗚呼、誰が予想出来ようか。

この、この織田上総介信長が！

最も身近な家臣に裏切られようとは！

「あの禿頭が……ぬかったわ。ワシもここまでかのう」

「いえ！」

蘭丸が悲鳴に近い声を上げる。

「この寺を抜け、信忠様と合流し、精兵10万を以って明智を討ち
ましようぞ！」

「はつ。柴田は北方。猿は中国。家康殿は堺で遊興。倅のどこにも
中央には多くの兵を残しておらぬわ」

「いえ！」

蘭丸はそう言つて。

涼やかな顔で笑みを作つた。

「信長様が率いる軍勢は1000を万とし、10000は10万となりましよう！その多勢で勝利に浮かれる軍勢へ奇襲を仕掛ければ——少数の明智など鎧袖一触でございます」

「かつそうじゃなあ。それも愉快じゃ」

思わず笑つてしまう。

だから愛いのじゃ。この男は。どこまでもワシを信じておる。

「じゃあこんな案でどうだ？堺の商人や周囲の農民に命じ、酒池肉林が出来る程の酒と肴を用意させ明智に届けさせるのじゃ。周囲にワシの部隊が散っているため休息を命じる禿頭のその切っ先を、我らで噛み付く。どうかの？」

「おお、あの話に聞く桶狭間と同じ策でございますね！」

「いーやもう一手」

ニヤリと笑つてやる。

わき腹に刺さつた鏃が激痛を誘うが知つたことではない。

「中国の猿に書面を送り、更に背後を突かすのじゃ。頭の早いあいつのこと。毛利なんぞとすぐ講和でもして手を脚にし駆けてくるわい。かつ」

「二段構えとはさすが殿！お見事でございますっ」

「そう褒めるな蘭丸。ワシが見事なのは今に始まったことではないわ」

二人して大笑する。

行き着いた先は炎に囲まれた行き止まり。

まるで舞台じゃ。

焼け落ちる木々。笑う従者と主。

なるほど、こんな人生なら。

人生下天50年も悪くはないかもしれん。

「のう蘭丸！他にも策があつてな」

そう言い視線をやると。

蘭丸は音もなく倒れていた。

「蘭丸！」

抱きかかえると軽い華奢な体躯が静かに脈動する。

胸には一発の銃痕があり、薄い赤をだくだくと流していた。

「おお殿……さあ軍の準備は整いましてございます……下知を……
蘭は、一番槍を戴きとうございます……」

震えるように呟く様は勇ましくもあり、弱く。

大きく肥大した瞳はもうこの世の者映してはいない。

甲冑を身に纏うワシがその瞳にはおるのだろう。

無数の鉄砲。無敵を誇った織田の家紋を翻す。

織田家の出陣じゃ。

「……森蘭丸よ！一番槍の命を与える！」

その言葉に。

定まっていな瞳が世界を捉え、震える唇が脈動を止め、青色に染まっていた頬が生氣を取り戻す。

「ははっ！一番槍、見事果たしてみせましょう！」

覇気のある声で叫び。

心の臓の音が一息。そして音が消えた。

「かつ。逝きおったか……阿呆め。蘭丸よ。お前が行く先は地獄よ。責め苦と戦いが終わらぬ修羅の道よ……」

懐にある短刀を広げる。

こつも安らかな気持ちになるのは何年ぶりじゃろうか？

「長政に、じいや信勝に親父殿。朝倉にお齒黒。武田。もちろん蘭丸。かつ、沢山おるじゃろうなあ。そこに数万の雑兵がワシに憤っておるじゃろうて。なあに、安心せい。今度は仲間じゃ。地獄の門番相手に戦をしようぞ……」

切っ先を腹に向ける。

「愉快なり、この世。さらば！」

突きたてた。

世界がぐるりと反転する。

自分に混入した異物が伶俐な鋭さを以って蹂躪する。

薄れ行く視界を炎となった火花が覆う。

此時、信長は生を遊ばし候。人間五十年 下天の内をくらぶれば、
夢幻のごとくなり。

——誰か——助けて——
そんな声が、最後に聞こえた。

第一話『本能寺』（後書き）

さてシリアスは終了！次からは恋姫の世界に向かいます。
ここまで読んでいただいてありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5564ba/>

真・信長無双 ～天下人飽きたから小娘に天下取らす～

2012年1月15日04時55分発行